

2021年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	32.3%	67.7%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	20.0%	72.0%	8.0%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	22.7%	68.2%	9.1%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	17.9%	82.1%	0%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する	17.9%	75.0%	7.1%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	20.7%	72.4%	6.9%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境を構成する	21.4%	75.0%	3.6%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	22.6%	77.4%	0%	0%

「園の教育方針等の理解」では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）「出来ていない」（以下、「D評価」という。）のうち、「A評価」「B評価」の合計は、100%となりA評価の割合が前年の15.8%から32.3%へ増加した。

「教育課程の編成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて92%となり前年より8.1%増加、「指導計画の作成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて90.9%となり前年とほぼ横ばいの結果となった。

「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は、「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は95.6%となり、前年より5.8%増加した。環境を通して教育・保育を行うことの重要性を理解し、強く意識しながら実践していることが窺える結果となった。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて前年度より5.4%増加し100%となった。全ての教職員が日常から自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かすことを意識し改善に努めている結果となった。

全ての項目で、前年度より「A評価」と「B評価」の割合が増加し、教職員全体に保育の計画性の重要性が浸透していることが窺えるので、引き続き「A評価」の割合を高めていけるよう取り組んでいきたい。

Ⅱ 保育のあり方、幼児への対応について

		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	36.7%	63.3%	0%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	35.5%	64.5%	0%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	19.4%	77.4%	3.2%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	22.6%	77.4%	0%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	26.7%	70.0%	3.3%	0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	32.3%	67.7%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	48.4%	51.6%	0%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	28.6%	71.4%	0%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	32.3%	67.7%	0%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	30.0%	70.0%	0%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	22.6%	74.2%	3.2%	0%

「健康と安全への配慮」の項目では、園内の危険な箇所、危険な遊び方をしていないかを常に配慮することについて「A 評価」と「B 評価」を合わせて前年より 5.4% 増加し 100% であった。園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温については、「A 評価」と「B 評価」の割合が前年より 2.7% 増加し 100% に達した。前年から高まっていた「健康と安全への取組」は職員全体に浸透した。園内の清掃や整理整頓、消毒・換気が、新型コロナウイルス感染症の予防のためにも子ども達の健康のためにも重要なことであり、今後も徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A 評価」と「B 評価」を合わせて平均 97.8% であり、前年度より 6.3% 増加した。幼稚園舎でのドキュメンテーション、保育園舎でのラーニングストーリーは幼児理解のための取り組みでもあり、2 年目で職員一人一人がその効果を感じていることが要因として考えられる。幼児理解は、保育のあり方・幼児への対応に不可欠なものであり、全ての職員が個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解する力と幼児の育ちを理解する力を高めながら、保育の実践を心がけていくよう今後も継続していく。

「指導との関わり」の項目では、全ての項目が「A 評価」と「B 評価」を合わせて 100% となった。これまで初めてのこと、全ての職員が幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動し、幼児が自ら考えるよう幼児への関わりをととても重視しながら保育に当たっていることが窺える。「A 評価」の割合が更に高まるよう、幼児との関わり方

の質を高めていきたい。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて98.4%となり、前年より3.8%増加し、前年度からラーニングストーリーおよびドキュメンテーションに取り組む中で一定の成果が窺えるものの、「A評価」の割合が昨年度より8%減少している。保育者同士が話し合い、幼児について教職員全体で協力・連携する意識を更に高めるため、何でも話し合える雰囲気とそのための時間を作っていきたい。

保育のあり方、幼児への対応について、「C評価」「D評価」と自己評価した職員には、経験に応じた個別の指導・支援をしていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	35.7%	64.3%	0%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	42.9%	57.1%	0%	0%
要望等への対処の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	26.9%	73.1%	0%	0%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて前年度より8.6%増加し100%となった。「対応上の心がまえ」「要望等への対処の仕方」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせるとどちらも100%となった。保護者への対応について、全ての項目が「A評価」と「B評価」を合わせて100%となるのも、これまでで初めてのことである。

保護者とのコミュニケーションの大切さを全ての職員が理解し、苦手としていた者も積極的に対応することを心掛け、「みてみてストーリー」やドキュメンテーションを活用して子どもたちの成長を保護者にお伝えし、ともに喜びあうことが増えたことで保護者との良好な関係づくりにも繋がっている。今後も引き続き、保護者の皆さんに丁寧な対応を心掛け、「A評価」の割合を高めていきたい。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	13.6%	72.7%	13.6%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める				
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	10.0%	70.0%	10.0%	10.0%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計は86.3%となり、前年度より3.9%向上した。新型コロナウイルス感染症の影響が前年度から続いてきた中でも、可能な限りこれまで実施してきたことを継続し、園庭で植物を育てたり野菜を育てたりすることや、地域の方と一緒に行う活動も、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて実施してきた。アクティブシニアの方々との花育活動に加えて、「絵本の読み聞かせ」ボラン

ティアさんに今年度もお越しいただいた。「芝生広場」「探検の森」は、自然と関わる機会が増加することに繋がり、職員の意識も更に向上したことが伺える。また、園外への散歩が地域の方々との触れ合う機会にもなっている。学年毎に一緒に行動することが、機会を遺失にすることになっている面もあるため、引き続き更なる機会の設定と充実のため、活動内容を改めて検討していきたい。

「小学校との連携」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら前年度に続いて連携する機会が全くなかった。

「子育て支援と地域への開放」の項目では、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間6回実施していた“園庭開放”を前年度に続き休止した。無償で実施している“くまのみクラブ”は、地域の未就園児親子が集まれる場として認知度が高まり、利用者が3倍増となった前年度よりも更に参加者が増加した。子育て支援や地域への園庭開放に携わる担当者以外にも内容を伝達し、教職員全体で子育て支援について考え内容の充実に努めていきたい。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	22.2%	48.1%	22.2%	7.4%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	20.7%	69.0%	3.4%	6.9%

「研修・研究への意欲・態度」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、園外研修の機会が昨年度に引き続きほとんど中止となったことから、研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「A評価」と「B評価」と答えた者が、前年度より6.3%減少した。その分、前年度から継続している園内研修のテーマ「保育記録を活用した」園内研修の機会の充実に努めたところ、多くの職員がその効果を実感していることが窺える。引き続き研修会・研究会に参加する機会の確保とその体制作りにも努めていくとともに、職種に応じそれぞれが意欲的に参加できる機会を提案する必要がある。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」と「B評価」と答えた者が89.7%となり、前年度より3.1%増加した。3年連続で向上したことから、相談しやすい雰囲気が続いていることが伺える。「C評価」と「D評価」をした職員が0となるよう、何でも相談できる雰囲気作りと教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

2021年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

指導計画の作成

- ・今年度は加配担当ということもあり、保育の計画を立てることはほとんどなかったが、担当児の様子を見て活動や行事の取り組み方などを担任の先生と話し合いながらその子にあった取り組み方で行えたことは良かったと思う。また、ホームクラスでは、子どもたちの様子を見ながら環境設定を行うことができたと思う。今後も他の先生方の保育や環境設定の方法などを見て様々なことを学んでいきたい。
- ・1日の保育について、とても迷うことが多かったが、天候や気温などについてもよく考えて計画できたと感じる。他の先生方にもたくさん相談に乗っていただいた。また、朝の内や前日までに保育準備をしておくことを意識したことで、子どもと関わる時間が多くなり、一緒に遊ぶ時間を大切にでき、自分の焦りもなく保育ができた。
- ・子どもたちは毎年同じではない。子どもたちの個性をありのまま認め、どのように保育を計画していくかは、毎年同じものではない。子どもが変われば保育も変わるということで、今年度、自分自身、例年は・・・が通用しない場面があった。子どもたちに寄り添い、その都度子どもたちの様子から計画を組むようにしてきた。
- ・計画をたてることによって、先の予定や見通しをもって日々の保育を進めていくことができた。
- ・自宅に持ち帰ったり休日を利用したりして作成しなければならず、負担が大きかった。
- ・月案を作成することで、環境構成を考えたり整えたりすることができ、子ども達が楽しんで過ごせる場、また安心して過ごせる場になったように感じる。
- ・今年度は年中ということで、年中としての姿であったり、成長であったりいろいろなことを再度確認し、計画を立て保育してきた。4月から自分なりに試行錯誤しながら月案を作成してきて、また先生たちの月案を見させてもらって、保育の深い部分まで探ることができたり、こういう見方もあるのだと新たな発見をしたり、月案を通して計画はもちろん、振り返りが細かくできた。
- ・SOAP の活用で、今まで見えなかった自分の保育を見つめ直すことができている。

環境の構成

- ・室内遊びでは、その日の状況に合わせ、子どもたちの意見も取り入れコーナーの準備をします。希望した遊具で工夫して遊ぶ様子から成長具合や興味関心のあるものに気付きます。一緒に遊ぶ中に加わりながら、共感したり小さな要求にも応え楽しんでいます。危険な遊び方への声掛けや注意を促すことも重要視しています。
- ・子どもたちが、何に興味を示しているか何をして遊びたいかを考え、遊具・素材を準備できるようにしてきました。
- ・担任の先生のやりたい保育を聞き、一緒に環境設定を考えた。

- ・前日までの子どもたちとのコミュニケーションをもとに、自由遊びの中で子どもたちが自ら活動を展開していけるような環境設定ができたと思う。
- ・子どもの月齢、成長に応じて担任で話し合いをして発達に応じた環境作りをしながら進めていった。
- ・保育の計画は、子どもの成長・発達に応じて担任で話し合いながら毎月進めていった。特に環境の構成では、安心して活動できるように楽しくなる部屋を構成した。月齢が大きくなるにつれて遊びも変わってきているので、自ら活動を展開していけるように工夫していきたい。
- ・コロナウイルス感染予防対策として、玩具や部屋の消毒、子ども同士の蜜を避ける等の制限が多い中で計画が難しかった。物理的に保育後に毎日大量の玩具を消毒することは時間もかかり本当に大変だった。

評価・反省

- ・クラスで計画していても次々と予定が変わりゆっくりと保育ができない。前日には一日の流れを決定して欲しい。
- ・人的環境についての保育者の不安が、子どもに対しても影響してしまったと反省する。子どものためには、何があっても安心できる保育を提供できるように大らかな気持ちを持ちたい
- ・その時期ならではの遊びや季節を感じられる取り組みを意識して計画を立て、職員間で話し合い連携できたことは良かったと思うが、行事や日々の予定などもあり忙しく、また1クラスに占める園児数の多さも相まって、ゆったりと取り組むことの難しさを感じた。これを踏まえた改善策として、内容の見直しや職員間の連携などについて、これまで以上にしっかりと話し合っていくようにしていくことが大切と考える。
- ・子どもの成長や発達に合わせながら保育者間で相談し、環境設定や玩具の設定を行うことができた。各クラスの毎日の保育計画を理解し、臨機応変に対応出来るように心掛けていきたい。
- ・園生活の流れや環境設定など、子どもたちが自ら楽しく生活できているか、保育者同士でその都度話し合って計画してきたが、日々の保育生活に追われて、すぐに環境を整えることが出来なかったように思う。子どもたちの好奇心や探究心を引き出し、もっと遊びが広がるよう、もう一度環境見直し、計画性を持って保育を行いたい。
- ・クラスの担任同士で、次月の制作や遊びの環境設定などを話し合ってきました。今の子どもたちにとって、どの時期が適切なのかということは、前年1歳児を担任していた他の先生に相談していきながら進めていくことができました。1歳児が初めてで、書籍を読んでも分からないことも多く、戸惑うことが多かったのですが、周りに助けをもらいながらすることができたと思います。うまく指示できなかったことも多く、まだまだ勉強不足だなと感じます。
- ・コーナーの設定や環境について話したりするが、なかなか取り入れてもらえない状況に感じた。一人の意見に偏らずにもっと広く意見を聞いて、良いと思うことは取り入れてほしい。
- ・毎朝、今日の保育の見通しを知らせてもらえることで保育者が動きやすくなるのでありがたかったです。自分からも声をかけて聞くようにしていました。
- ・コロナ禍において状況によっては臨機応変な対応が必要だったが、それでもできる範囲の事を全職員で考え進める事ができた。
- ・毎日の保育で、職員同士の連携がうまく取れておらず保育中にその日の計画をたてることがあった。結

果、伝達が上手くいかず間違いに繋がったり、子どもたちを待たすことがあり、事前に落ち着いて計画する事の必要性を感じた。

- ・時間割が計画的にできていない時があり、余裕なく進めてしまうことがあったため、時間配分や子どもの動きを予想して、余裕をもって保育をしていきたい。
- ・振り返りが大切と思いながらも、日々の振り返りを行うことがなかなか出来ず、月案を通しての1か月の振り返りになることが多かった。
- ・今回、ホームクラスで絵本、手遊び歌だけではなく、ゲームを以前より多く取り入れる事にしました。そして結果として、子どもたちがとても早くルールを覚え、楽しむ姿が見られ、続けて新しい事に挑戦していきたいです。
- ・お迎えの際、挨拶を英語で言うように心がけています。皆さんはとっても上手に言えるようになり、とても嬉しく思います。
- ・学年で話し合い、連携をとりながら取り組めた。見通しを持ち、役割を分担しながら保育を行うことができたと思う。
- ・「子ども達の学び」子ども達がやってみたい！と主体的に遊べるような環境や、どんなことに興味をもって学ぼうとしているのか一緒に考えていけるようにしていきたい。
- ・計画がなかなかうまく立てられず、一日一日、目の前のことを必死にする保育になっている。それが原因で準備不足となり、より時間がかかってしまっている。
- ・クラスの先生と子どもの状態を見ながら、今、子ども達が興味あるものや、夢中になっているものを発展させていけるような遊びを考え、環境を整えたり、保育内容に取り入れていくような話し合いが出来、実践出来たと思います。
- ・事前にクラスの先生に1日の活動予定を聞いておくことで、先の見通しを立てながら、保育がスムーズに進めていけるように準備したり、動いて行けたのが良かった。どのクラスに入ってもクラスに合った動きができるようにしていきたい。

Ⅱ 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・予定や流れなどを明確に伝えること、子どもたちの気持ちに寄り添い受け入れることで信頼関係を深め安心を得て約束事が守られ大きな怪我にならず落ち着いて過ごすことが出来ていると思います。挨拶、話を聞く姿勢、ペア活動、黙食、自分の考えを発言する、お片付け、持ち物管理など、一人一人の成長した姿を見ることが出来ます。
- ・戸外の遊具で遊ぶときは、常に見守り十分に遊ぶことができるように配慮できたと思います。死角がないよう、自分の立ち位置に気を付けていきたいと思います。
- ・コロナ禍での保育は難しく感じた。この状況下での保育の在り方を考えさせられた。
- ・以前から気になっていたコロナ対策、できるようになりました。他のホームクラスと同じく子どもたちが座る場所を記録することにしました。
- ・おやつ時間に黙食することの難しさを感じ、声掛けをしています但途中で話をしている子どもがいます。

幼児理解

- ・子どもたちの様々な出来事や、感性に共感することが出来ていたかを振り返ると、共に楽しみながら出来ていたように思う。ただ、保育者同士の価値観の違いにより、子どもたちに戸惑いを与えたり、不安にさせることがあったと思う。保育に正解はないにしても、子どもの気持ちを第一に尊重できる保育をしていきたい。
- ・最近のクラスの中での子供たちの姿には、友だちへのいたわりの気持ちや助け合いの心が感じられる。温かいクラスに育ってきたことを、とても嬉しく思う。

指導と関わり

- ・今年度は主担と加配という考え方ではなく、クラス担任という考え方で保育を行うことができたことで以前よりも主担の先生と相談しながら保育を進めることができたと思う。また、今年度は加配児だけでなく個別対応が必要な子が多いクラスだったが、大勢の先生方と色々なことを相談しながら一人一人に合った援助や声掛けを工夫できたと思う。今後も、一人一人に応じた声掛けや援助を心がけていきたい。
- ・子どもの話をよく聞いたり、スキンシップを取るように心掛けたことで、遅番でそれぞれのクラスを見守るときに子どもが安心して迎えを待てるように思う。フリーの立場では子ども同士のトラブルに対し、適切な対応をすることが難しいので、子どもとの信頼関係を少しずつでも築けるように努力したい。
- ・子どもたちと話を話しあい、一緒にいろいろな遊びをすることができました。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながら安心して過ごせるように言葉掛け、スキンシップを大切に関わるよう心掛けた。
- ・園生活が初めてで、母親から離れ、始めは不安もいっぱいなので安心して過ごせるようにスキンシップを大切に。子ども一人一人の発達段階に応じた関わりを大切に。
- ・それぞれの年齢に合った保育を心掛けることは当然だが、なによりも個々の欲求をしっかりと受け止められているのかについて日々保育を振り返ることで次につなげていけているよう心掛けていることは良かったと思う。一方、自分では気付けなかった点を他者から教えてもらうこと、他の先生の良い点を見習うことなどにより、柔軟に吸収し活かしていけるよう今後も努力していきたいと考えている。
- ・子ども達の思いに寄り添い保育をすることを心掛け、積極的に話をし、スキンシップをとるようにした。子どもが死角になっているところで遊んでいる場合や危険を感じた時、保育者間で連携できるよう、積極的に声をあげていきたい。
- ・保育のあり方については、年齢も小さい担任ということから“ゆったりとした関りの中での幼児理解”を念頭に置いてしてきました。月齢の違いから、発達段階の差の大きな学年なので、個々にあった保育を心がけて保育をしてきました。自分の保育で正解なのかはわかりませんが、入園してから今迄の関りで、しっかりと愛着関係、信頼関係が築けたと思っています。
- ・年齢が小さいため、抱っこなどのスキンシップはより頻繁に取るようにし、愛着関係を築けたと感じる。トラブルが多かったが、その都度、思いを代弁したり、相手の気持ちを伝えたりと、丁寧な関わりを心掛けた。
- ・クラスの子どもたちの様子から、子どもたちにより良い環境の作り方を考える場面が多くあった。物的

環境だけでなく、人的環境の在り方を深く考えるように心掛けた一年だった。難しい部分もあるが、楽しく保育をすることができたと思う。子どもたちの興味関心から、担任がそれをどう受け止め、どのように子どもたちに返していくかによって、子どもたちの目の輝きは変わり、遊ぶに夢中になっていく、また学びを深めていくことを目にするのができて、私自身学びの深い年となった。

- ・誰もが認められるような関わり、失敗を注意するのではなく「大丈夫。誰だってあるよ。」等、前向きな言葉をかけるように心掛けた。その姿が、自然と子どもたちに伝わり、クラスが温かい雰囲気になった。
- ・保育中の嬉しかった独り言を大きく言うようにした。「誰かここ、片付けてくれたのね。嬉しい」等。この言葉で子供たち自身が声をかけなくても気付けるようになってきた。
- ・子ども一人一人の様子に合わせた声掛けをするように努めている。また、子どもの様子を把握する中で、その子にとって少しでもできた時は、褒めていきクラスのみんなでその姿を認めていくようにしている。
- ・子どもが疑問に思ったことや自分の思いを伝えてくれることに耳を傾け、言葉を返したり、一緒に考えたりして、子どもと同じ目線で接するように心がけた。
- ・子どもの様子を把握し、丁寧にかかわっていくように努めるように意識しているが、気持ちに余裕がなくなってしまうと、時折口調が厳しくなってしまうことがあるため気を付けていきたい。
- ・一人ひとりの子どもが、日々安心してのびのびと過ごすことができるように、環境を整えたり、保育に努めてきた。また、保育者に対しても、家庭と同じように自分を出していけるように、子ども達に接してきたが、行事に加えて、リトミック、お話会、野菜の栽培など、活動内容も多くなかなかゆっくりと向き合う時間が作れないのが現状である。
- ・子ども達とのスキンシップ、コミュニケーションを大切と捉え関わってきた。時には厳しい時もあり、怖いと言われることもあるが子ども達への思いを持った対応と考えている。
- ・一人一人の幼児の持ち味を生かしながらかかわることができた。
- ・子ども一人一人のありのままの姿を受け入れたり、ふっとした時のつぶやきや想いを大切にしたりするように心がけている。
- ・こどもの「やってみよう！」という気持ちを大切に、寄り添うにしている。一日一日必死で保育をしているせいで、子どもの小さな変化や気づきに寄り添うことができてないことが、反省点である。
- ・子ども達の気持ちに寄り添い、まずは、子ども達の思いを聞き、認めた上でどうしたらよいかを考え、対応している。
- ・1人1人の特徴をクラスの先生から聞き、自分でも子どもを”よく見る”事で、子どもの見えていない心の部分や発達段階を理解して、一人一人に合った関わりをするよう心掛け、関わっていった。対応に悩んだ時は他の保育者に相談したり、関わり方を見て、適切な対応をしていけるようにしていきたい。
- ・丁寧な関わりを心がけた。泣いていた子も関係を作っていくことで、心を開き泣くことも減ったような気がする。
- ・その時々子どもたちが興味のあるものを準備するよう心掛けていくことで、分散して遊べるようになり、遊びこむ姿も見られるようになってきた。子どもたち同士の関わりも増えてきた。

保育者同士の協力・連携

- ・子どもの様子で気になったことを伝え合い、どのように関わりを持つか同じ方向性で保育をするよう

に心掛けたが、話し合う時間がほとんど取れなかった。

- ・配慮が必要な子どもの理解、サポートの仕方を試行錯誤ではあったが、担任の先生と話し合いながら進めてこれたと思う。進級にあたって、もっと話し合いを持ちながら対応していきたいと思う。
- ・保育のあり方について、保育者それぞれの保育観があり、保育者間での共通理解が難しかった。
- ・話し合ったことに対して疑問や意見がでずに進んでいくことが多かった。意見がないのではなく、言わなかった、言えなかったことが問題なので、話し合っている場や疑問定義している保育者に話ができる時間や環境が必要だった。
- ・保育者の人数分保育観は違えども、同じ方向をもってやっていきかけたが、今年度は残念ながらそれはうまくいかず自分が我慢をして保育をしていた。疑問に思う点が多かったのでストレスに感じてしまっていた。
- ・担任とは、日々の保育の中でのエピソードや、子供の変化や成長の姿など、些細なことまでしっかりと密に連絡し合えていたと思うので、とても保育がしやすかった。
- ・クラス担任の替わりで、各クラスやホームクラスに入ると子ども達の様子がよくわかり、あらたな一面を知ることできる。また、それにより職員と子ども達の様子について教えてもらえることもある。
- ・担任の先生方からの2時までの出来事やケガの報告がとても役に立っています。2時以降の保育にも、活かせるし、親がお迎えにいらっしゃった時により詳しくお子さんの様子を伝えられるから助かります。
- ・支援を必要とする子だけでなく、クラスの子ども達を長谷川先生と一人一人の特徴や姿をお互いの視点から見て、伝え合い、子ども達と接してきた。保育終了後だけでなく、日々の保育の中で、気付いた点やリアルタイムに起こっている出来事を互いに共有し、その瞬間に子ども達に返せる部分はすぐに返すようにしている。不安を感じたり、人一倍大人を求めている子どもたちが何人かいるので、一対一の時間を大切にしたり、その子が安心して人や環境に関わることができるように大切にしてきた。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発信と受信／対応上の心がまえ

- ・ホームクラスで保護者の方への対応を行うことが多かったが、一人一人の家庭に応じた対応を行うことができたと思う。中には対応が難しい方もみえたが、各担任の先生方に相談したり話し合ったりしながら対応することができた。また、加配児の保護者の方とも話をする機会が多かったが、園での様子をこまめに伝えていくことで、その子に応じた援助や対応につなげることができたと思う。
- ・お迎え時に落ち着いて挨拶することで伝言や持ち物忘れがなくなると思い、意識して丁寧な挨拶や会話を心がけています。子どもたちの自主的な挨拶の習慣が定着したことにより、保護者からも積極的に挨拶を促していただいたり一緒に持ち物を確認していただけるようになりました。
- ・園であったこと、子どもたちの様子や発見したことなどを伝えることができたと思います。怪我があった時、伝え忘れ電話を掛けたりしたので、伝え忘れのないようにしていきたい。
- ・保護者の方には、丁寧に対応してこれたと思う。今後も保護者の方が安心して、お子さんと一緒に楽しく通っていただけるよう丁寧に対応していきたい。
- ・常に笑顔で声掛けして話をしっかり聞き、話をした内容は担任で共有できるようにした。

- ・初めての子育てで戸惑う保護者からの相談はよくあったが、その都度よく話を聞くように心掛けて対応すると、その後どうなったか知らせてもらえ成長を喜び合えることができた。この一年、苦情なく、引き続き職員同士が共通理解をもって保護者に安心してもらえるようにしていきたい。
- ・日々の子どもの様子をしっかりと伝える中で小さな発見や成長を共に喜び合い信頼関係を築いていくように心掛けている点は良かったと思う。一方で、保護者が伝えたい事、聞きたいことを的確に受け止め答えることができているのかについてはどうだったのか、相手の立場になりしっかりと受け止め聞くよう努力していきたいと考えている。
- ・毎日元気よく挨拶をしたり、様子を伝えたり安心して気持ち良く通って頂けるよう、今後も積極的に関わりを増やしていきたい。保護者の方からの伝達を正しく他の保育者に伝えられるように、気を付けていた。
- ・子どもたちの新たな発見や、成長その瞬間を保護者と共に共感することができた。特にラーニングストーリーを通して、共に喜び合える機会が増えたように感じる。家庭と園での生活や、遊びを共有し、保育生活でも活かしていきたい。
- ・保護者の不安な気持ちなどを汲み取りながら、関わってきました。必要な時には、副園長も交えて面談をしたり、電話で話したりするなどしてきました。早急に対応することで、保護者との信頼関係も築けたのではないかと思います。
- ・一日の姿やエピソードなどを連絡帳や口頭で伝えることを意識し、コミュニケーションをとることができたと感じる。保護者から家庭での様子も聞くことができ、今年度も保護者対応が楽しいと感じることが多かった。トラブルが多かったが、怪我をした時は口頭で詳細や謝罪の気持ちを伝えるようにした。
- ・保護者の不安については、主任を中心に話し合うことができコドモンで意見を提案したり、内容によっては口頭で話したりして相談の場は持てたのでは？と思う。
- ・みてみてストーリーを通して、保護者との会話が増え成長の喜びを共有できたのはとても嬉しいことの一つになった。
- ・家庭との連携をとることで、子どもたちの“今”がわかり、保育に生かすことができた。今後も家庭との連携を通して、子どもたちの成長を共に支えていきたい。
- ・保護者の悩みを受け止めつつも不安に繋がらないような言葉選びを心掛けた。園生活で一番身近にいるだけに気づく事もあるが、そればかりを指摘するのではなく成長できた部分を一緒に喜びながら次のステップを一緒に考える事で共通理解できた。
- ・担任補助の立場からも保護者と直接話をする事で、園での具体的なエピソードや家庭での様子がより伝わりやすく、情報交換がスムーズに出来たように思う。
- ・送迎時に口頭でその日の子どもの様子や頑張ったことを伝えたり、週1回はドキュメンテーションをできる限り子どもの遊びの様子をあげたりするように心がけている。
- ・排泄のことや食事のことなど園で行っていくことを保育者に伝え、園と家庭で一緒に取り組めるように伝えている。
- ・子育てに関しての悩みをもっている方に、適切な声掛けが難しいため、他の先生方に相談し知識を増やしていきたい。
- ・早朝から延長まで利用している家庭がほとんどなので、連絡等難しいところが多かった。特に、個別にじっくりと時間をかけて話したいことがあってもなかなか時間を作るのが難しかった。コドモンの家

庭連絡を利用したり、電話をしたりしてできる限り丁寧に対応するようにしたが、しっかりと対応するところまではできなかった。

- ・子ども達とのコミュニケーション同様、保護者の方ともたくさん取るように心がけてきた。話を聞いたり話したりすることで、子どもの姿がみえてくることが多くあるので、今後も適度な距離を保ちながら対応していきたいと思う。
- ・保護者と対面する際、笑顔を心がけています。
- ・今年度は 保育室が1階ということで毎日直接保護者の方といろいろな話ができ、互いに細かいことを伝え合うことができ、日々の保育に生かすことができた。その反面バス通園の方は直接話をする機会がほとんどないので、差が出ないようにコドモンや電話などで連絡を密にとるように心掛けた。ただ、やはり毎日話ができる保護者とそうでない保護者との関わりにはどうしても差が出てしまうので、引き続き気をつけていきたい。あと、保護者とのつながりのツールであった連絡帳がなくなったということで、連絡帳以上のつながりをコドモンでどうカバーするか今でも課題の一つである。
- ・コドモンの連絡帳の使い方が保護者の方にも浸透し、細かなこともやり取りができ連携ができたと思う。
- ・保育で大切にしている事を伝える。
- ・クラスでの活動や遊びの中で子どもたちの成長にどのようにつながっているのかを伝えている。
- ・顔を見て1人1人に挨拶するよう心掛けていった。話しやすい雰囲気を作ったり、保護者から聞いたことは、必ずその都度担任に伝えるよう、気をつけていった。
- ・登園の時や帰りの時には積極的に声をかけるよう心掛けた。特に下の子が生まれる子が多かったため、園で気になることを話しお家での様子を教えてもらうようにした。園では見られない姿がわかりその後の園での関わり方の参考にすることができた。

要望への対処の仕方

- ・保護者からの要望に寄り添うことはできたと思うが、中には疑問に感じることを受け入れたり、自分自身がそれを声にあげられなかったりと反省する。
- ・保護者支援を重視しながらも、子どもの身体的精神的な発達に関わることを最善に、園全体で考えていきたい。
- ・まだまだ勉強不足な部分が多々あり、就学に向けて支援していく部分に対する対応が遅くなってしまうったり、うまく繋げなかった部分もありました。
- ・保護者の思いや悩みを聞き、クラスの先生と話し合い、改善方法を考え、子どもと保護者の一番ベストな方法は何か考えた。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・今年度はコロナ禍の影響もあり地域とのかかわりはほとんどなかったように思うが、毎月絵本のお話の会に地域の方が来てくださることは子どもたちも楽しむことができているし、自分自身も知らない絵本の作品を知ることができる機会となっている。
- ・気候の良い日は散歩に出かけ季節を感じたり自然と触れ合いを持つようにした。また、地域の人たちとすれ違う際には、声をかけてもらい交流を持つことができた。

- ・散歩によく出掛け、地域の人たちと挨拶をしたり、小学生に声をかけてもらったりして交流をもつことができた。
- ・園外保育で地域に出かけることを計画し、連鎖的に様々な方の好意により力を貸していただいたことで、いろいろな経験ができたことが本当によかった。今後も積極的に地域にでかけて、子ども達はもちろん、保育者自身も地域の方と連携する経験をしていくのも大切だと思う。
- ・散歩に出かけることで地域の方々とふれあいや自然に触れることができて良かった。
- ・散歩に出掛け、近所の方に挨拶をしたり自然と多く関わる事が出来た。身近な自然の中で、草木・花などに触れ、子ども達と季節を感じ、自然と触れ合うことができた。公園で拾ったどんぐりなどを持ち帰り、製作や玩具を作る事により子どもたちはとても楽しそうだった。
- ・散歩や園外保育を通して、保育者以外の人と関わり、挨拶や言葉がけをしてもらうことによって喜びや親しみを感じられたのではないかな。
- ・散歩に行く機会では、近隣の方に進んで挨拶をすることで、子ども達も一緒に挨拶ができるようになり、話しかけて頂いたり、飼っている犬を間近で見せて頂いたりする機会がありました。年齢が小さいからと言って、地域の方との触れ合う機会が少ないのかと思っていましたが、団地内を散歩するだけでも、地域の方との接点が生まれるということを知り、今後も積極的に取り入れていきたいと思います。
- ・木の実がたくさん落ちている場所を探したり、公園までの散歩ルートを考えたりして保育に活かすことができた。探検の森では子どもたちと自然の中で遊ぶ楽しさを一緒に感じられたと思う。植物についての知識が乏しいため、勉強していきたい。
- ・探検の森ができて、保育の幅が広がったように思う。探検の森という素晴らしい環境を有意義に使っていききたい。小さな子から大人までわくわくする場所であると思う。ただ怪我や事故には気を配らなければいけないと再認識している。
- ・花育を通して、地域の人と触れあいを持って野菜や花を植えることができた。野菜を身近に感じることで、生長を楽しみにすることができたと思う。
- ・蚕の飼育や藍染体験、ポップコーン、野菜の収穫など今しかできない体験や経験を季節に応じて取り組めたことが保護者にも好評だった。保護者も体験した事のない体験を園ですることので、ドキドキ、ワクワクが増え子どもとの会話が増えたとのことだった。
- ・行事が多く毎日が何かに追われていて、芝生広場で自然体験する機会がほとんどなく一年通して感じられる自然の変化を園の限られた自然でしか感じることはできなかった。
- ・散歩や探検の森での遊びは、普段の園庭遊びのように各学級単位で行うことは出来ないのだろうか？学年で一緒にしなければ…という意識にとらわれ過ぎて、その機会を逃してしまい、結局は貴重な体験が出来ないまま終わってしまうということが多く、非常に残念に思う。折角の環境を最大限に生かす工夫が、もっと必要なのではないかな。
- ・行事がたくさんあったこともあり、なかなか地域への散歩へ行くことが出来なかった。時間に余裕があるときがきたら、園外にも散歩をしにいきたい。
- ・園外保育や行事などを通して、地域や自然との関わりを体験できるようつとめた。コロナのこともあり、今までのように進めていくことが難しくなっているため、コロナ禍の中での新しい関わり方を考えていかなければいけないと感じた。
- ・コロナ禍での関わり方も少しずつ定着してきたように思う。今年度も年長児は地域探検にでかけること

ができ、値域の方と交流を深めることができた。自然との関わりについては、藍染め、トウモロコシを育ててポップコーン作り、ハイビスカスティー、大根を育てて漬物など、食育につながる保育ができたと思う。特定外来生物の取り扱いについての配慮が十分でなかったことを反省し、今後に生かしていきたい。

- ・地域の方との関わり（絵本の読み聞かせ）で」来園されたときなど挨拶をかわして雰囲気作りに努めた。
- ・園外保育として、地域の郵便局・テニスクール・動物病院に訪問し、社会見学をさせていただき、子どもたちにとっても楽しい良い経験になった。またこの地域との交流により、地域と繋がることのできたのではないかなと思う。
- ・散歩の時の発見や、探検の森での遊びの中で季節の自然に触れ合うことを十分にできた。
- ・くまのみクラブを担当した時は、親子が楽しく過ごせるような楽しい雰囲気を作れるようにしていった。親子に寄り添い、丁寧な関わりができるようにしていきたい。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・今年度は、ホームクラスで保育に入っていることもあり、園内研修に参加することがほとんどできなかった。その中でも、園内研修で他学年の保育を見る機会があったことは、他学年の保育や子どもたちの様子を知るきっかけとなり、自分自身の勉強に繋がりました。
- ・園内研修、教員免許状更新講習会と学ぶ機会を得てとても勉強になりました。今後の保育に生かしていきたいと思います。
- ・自分の都合で研修に参加することがなかなかできず、次回からは参加し勉強していきたい。
- ・外部から来ていただく先生方の研修は自らの勉強になった。思うように発言できない雰囲気が気になりました。
- ・職員会議、研修では他の先生の取り組みや子どもとの関わり方を知ることができ、勉強になった。
- ・WEB研修にも参加することができ、学んだことをこれからの保育に活かしていきたい。
- ・毎月の職員会議で意見交換し、話し合ったことを全職員が共有し保育を見直すことが出来て良かった。
- ・コロナウイルス感染予防対策として、ズームでの研修となり戸惑ったが、それをきっかけに自分自身のスキルアップになった。また、休園中の家庭連絡などにも生かすことができよかった。
- ・毎月の職員研修で他のクラスの様子やそれを見る視点、そこから何を学び取れるのかなど学ぶことができて良かった。
- ・研修や会議に直接参加できなかったが、記録を読んだり、参加された先生からお話を伺うようにしています。自分自身のスキルアップに繋がるように、今後も進んで研究していきたい。
- ・今年度からステップアップ研修に積極的に参加し、自分の保育の幅を広げられたように思う。ラーニングストーリーの作成にあたり、保育者同士の意見交換もとても勉強になり、日々の保育に繋げることができた。
- ・月に一度の園内研修会では、みてみてストーリーを軸に幼児理解について学ぶ良い経験になっています。独学で学ぶのは難しいですが、園全体で“今”の子どもたちの姿を見て、聞いて、感じることで、子ど

も達が何を考えているのか、何を学んでいるのかを意見を出し合いながら勉強できるということは、保育園の園内研の特徴であり、素晴らしいところでもあると思います。今後も続けていけるように頑張っていきたいと思います。

- ・ステップアップ研修で、エピソードと写真を基に子ども理解を深めたり、その時の関わり方や、今後の関わり方について、深く考えることができ、良い勉強になった。また、他の先生方の考えも聞くことができ、とてもためになった。保育教材を作る機会もあったため、自分の引き出しが増え良かった。
- ・夜や休日の研修に常時参加は難しい。
- ・三重大学の先生に来ていただき、第三者の目線でアドバイスを受けられることはいいことだと思う。ストーリーなど、突き詰めすぎてストレスにならないようになるといいと思う。気軽に話し合えたら楽しく子どもの成長を共有できると思うので、クラスの雰囲気は大きい。自分自身も考えすぎないようにしないと負の方向に行きがちなので気をつけながらも、しっかり子どもを見ていくところは押さえたいです。
- ・今年度の研修テーマをもとに、月案を立て保育にあたることができたと思う。月案を立て、自分の保育を振り返ることで、子どもたちを理解し保育の反省と課題を見つけることができた。また、園内研修や講演会(zoom など)を通して、様々な人の考えや保育の質向上につながるような刺激を多く受けることができた。今後も研修を通して、保育者としての資質が向上できるように努力したいと思う。
- ・コロナ禍において、なかなか園外への研修が難しかったが、それでも園内で研修することで自分の保育を見直せたり、他の先生の保育を見る事で自分のスキルアップに繋がったと感じた。
- ・月案の見える化で全員が集まらなくても自分の時間がある時に、他の先生の保育を感じられるようになり、また自分の保育の意見もいただけるようになった。時間が効率よく使え、スキルアップに繋がり良い方法だと思った。
- ・子供理解について。なぜ、この子にこのような姿が見られるのかと、常に疑問を持つことが大切であると感じた。クラス内でのその子の問題を、職員間でオープンにしていくことや、積極的に周囲に相談していくことは、結果的にその子を園全体で理解することにつながる。周囲の協力を得られ、良い方法が見つかる近道になることを改めて感じた。
- ・研修で他の先生方の書類の書き方を知ることができたり、他のクラスの様子を知ることができる機会となった。
- ・興味をもった研修にできる限り参加していき、学んだことを保育でも活かしていきたい。
- ・自分の保育や環境設定を振り返ったり反省したり、次に向けての課題を見つけたりする上でよかったと思う。
- ・できていないことや欠点を探し合う時間ではなく、一人ひとりの保育を認め合えるような研修にしていけると、いいと思う。
- ・研修に参加することで、様々な保育に触れたり、保育の質を高める為のヒントや自分自身の振り返りにもなり、プラスになることがとても多かった。学びとなったことは、保育にいかしていけるよう心掛けたい。
- ・ドキュメンテーションを通し、より保護者の方々に子ども達の様子や日々の保育を伝えることができたように思う。写真をとることによって、自分の視点や考えなどを再確認したり反省したりすることにつながっていった。

- ・写真は、月案等を書く際に振り返りを行うことができたり、園内研修の資料として生かせたりすることが多くあり、目に見える資料として最適だったように思う。自分の資質向上にもつながっていったように感じる。
- ・今年度もコロナ渦の中、研修が中止になったり、リモートになったりと、外に研修に行く機会が少なかったが、その分、園内での研修がたくさんできて、身近な場からたくさんのことを学ぶことができた。先生たちとの話し合いや先生たちそれぞれのいい面を生かして、藤幼稚園としての月案もかたちになってきていて、日々の積み重ねの研修や研究の大切さを改めて感じた。
- ・園内研修では、昨年に引き続き三重大大学の先生と新たに高田短大の先生にきていただきご指導をいただいた。ドキュメンテーションを生かしての月案では、幾度も試行錯誤しながら検討を重ねてきた。SOAPを取り入れることで、より幼児理解を深め、藤認定こども園の保育者みんなが一人ひとりの幼児に寄り添いながら温かい保育ができるように研修を重ねていきたいと思う。
- ・研修で学んだことを全てではないが保育にいかせることができた。研修内容を振り返り見直すなどして自己学習もしていきたい。
- ・園内研修やドキュメンテーションなどを活かして保育を高めていきたい。
- ・今年も、先輩方に保育を見ていただき、たくさんの意見をもらう中で勉強させていただきました。忙しい中、丸一日自分の保育に時間を使っていただくことをありがたく感じ、今後の保育につなげていきたいと思います。
- ・研修にあまり参加できませんでしたが、記録を拝見させていただき、とても勉強になりました。
- ・家庭の都合で参加できない日もあったが、職員会議と研修が兼ねているので、園の様子もよくわかり、自分自身の学びにつながるので、できる限り参加していきたい。
- ・月に一回の職員会議内でみんなで研修することができとてもよかった。各クラスの写真を見せてもらい、その中で各クラスの子どもたちの状況や、担任の先生のかかわり方などを学べてよかった。なかなか他のクラスの日常を知る機会がないため、参考になった。